平成30年度 授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	コミュニティワーク実習 (Fieldwork of Community Work)			授業コード	E045701
担当教員名	河村　裕次、栗延　孟			科目ナンバリングコード	E30936
配当学年	4	開講期	通年		
必修・選択区分	選択	単位数	1		
履修上の注意または履修条件	「社会福祉士受験資格」を希望する者は、できるだけ履修してください。 ※家族援助論とソーシャルワーク演習との合同演習のため、該当年次のみ受講可能となります。				
受講心得	・グループワークを中心に行いますので、他のメンバーに迷惑をかけないよう無遅刻・無欠席を心がけてください。 ・グループワーク時は、ディスカッションや作業等に積極的に取り組むことを心がけてください。				
教科書	なし				
参考文献及び指定図書	授業中に指定します。				
関連科目	地域福祉論・児童福祉論・高齢者福祉論・相談援助の基盤と専門職A・社会調査法・社会福祉援助技術演習Ⅰ・Ⅱなど。				

授業の目的	経済や経営の知識をベースに、「子ども」「高齢者」「障がい者」など福祉に関する幅広い視点から専門知識やスキルを習得するためには、地域社会が抱える多種多様な課題を知り、体験交流活動で実感し、その課題解決に向けた必要な知識の修得、そして実際にステークホルダーとの協働による課題解決型学修が必要である。そこで、本科目は、ステークホルダーとの協働による課題解決型学修と位置づけ、当事者のニーズや地域の実情に合わせた運営、また当事者と学生との調整、企画立案のアドバイス等を通して、域学協働で行う活動の調整役、または総括的な役割を担うことのできるようにする。
授業の概要	こども・福祉マネジメントコースのCOC事業での企画立案、運営面や関係者の調整等を行うことで、域学協働での事業がより効果的になるような方法を学ぶ。それから、事業の打ち合わせ、企画立案、運営、振り返りなどを主導的に行うことで、地域の課題解決に向けたステークホルダーとの協働活動のあり方などを学ぶ。※外部講師による講演に変更する場合があります。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第 1 週 ： オリエンテーション 本授業の意義、目的の説明・社会人基礎力について 子ども・福祉マネジメントコースの目指す人材像について ※社会人基礎力の調査	シラバスで授業計画等の確認をする。(予習) 本授業の意義、目的等内容整理(復習)
第 2 週 ： 地域社会をフィールドとして学ぶ意義 こども・福祉マネジメントコースで取組むCOC事業の意味 COC事業での取組の流れの説明(打ち合わせ、企画立案、運営、振り返り)	社会人基礎力について(調べ学習)(予習) 社会人基礎力の個人分析(復習)
第 3 週 ： 多学年合同で学ぶ意義	
第 4 週 ： PBL・COC事業を通して学ぶ意義	OB・OGの職場(調べ学習)・COC事業について(資料参照)(予習) 講演後の内容整理(復習)

本学OB・OGを招待し、PBL・COC事業での学びが、どのように専門職として役にたっているのか講演してもらう。	
第 5 週 ： ステークホルダーと協働する意味 これまでのCOC事業等の関係者から、これまでの取組みがどのように地域に貢献しているのか、これから、どのような展開をしていきたいのか講演してもらう。	
第 6 週 ： 地域交流事業（グループ決め・企画立案①） 事業の役割ごとにグループを決め、それぞれの役割に応じて、企画内容等を考える。	企画書等の作成について（調べ学習）（予習） 企画書作成（復習）
第 7 週 ： 地域交流事業（企画立案②・全体打ち合わせ） グループごとに企画した内容の詳細を考え、その内容等を報告し、全体で意見交換を行う。	
第 8 週 ： 地域交流事業（企画内容等詳細決定・全体打ち合わせ） 企画した内容の詳細を決定し、グループで考えた内容を全体で共有する。	準備物等の洗い出し（予習） 必要物品準備・作成（復習）
第 9 週 ： 地域交流事業（事前準備①） 運営の流れの確認、当日の必要物品等を準備、必要に応じて物品等の作成する。	
第10週： 地域交流事業（事前準備②） 運営の流れの確認、当日の必要物品等を準備、必要に応じて物品等の作成する。	当日の運営の流れの確認・必要物品の作成等（予習） ロールプレイ後の改善点等をまとめる（復習）
第11週： 地域交流事業（ロールプレイ・事前打ち合わせ） ロールプレイでの変更点等をまとめるとともに、当日のスケジュール・役割等の確認を行う。	
第12週： 地域交流事業（実施①） 地域交流事業の実施を行う。	地域交流事業の準備 全体での当日の流れの確認など（予習） 地域交流事業の片付け 当日の振り返り（改善点・反省点等）の整理 （復習）
第13週： 地域交流事業（実施②） 地域交流事業の実施を行う。	
第14週： 地域交流事業（実施③） 地域交流事業の実施を行う。	
第15週： 地域交流事業（振り返り）	社会人基礎力の内容確認・前期の活動の振り返り（資料参照）（予習）

地域交流事業の企画立案・運営実施・役割分担等での問題点・改善点等を振り返る。 ※社会人基礎力の調査	
第16週： オリエンテーション・PBL（チーム・対象者決定） 対象者（高齢者・障がい者・児童家庭など）とチームの決定	シラバスで授業計画等の確認をする。（予習） 対象者の特徴・活動等の内容整理（復習）
第17週： PBL（フィールドワーク①・体験活動） 対象者ごとの地域活動に参加し、ともに活動を行う。	担当の対象者の地域活動を調べ、インタビュー内容をまとめる。（予習） ステークホルダーへのインタビューを自分なりにまとめる。（復習）
第18週： PBL（フィールドワーク②・ステークホルダーへのインタビュー） チームごとにステークホルダーへのインタビューを行い、地域活動の現状や問題点を洗い出す。	
第19週： PBL（課題整理） これまで調べた地域活動の内容とともに、体験活動時の参加者の状況、インタビューを基に、課題整理を行う。	対象者の地域活動の先進的事例等を調べる。（予習） グループで出された先進的事例等をまとめる。（復習）
第20週： PBL（情報収集） 課題解決に向けての具体的な検討を行うため、先進的事例等の情報を収集する。	
第21週： PBL（解決案検討・発表準備） グループで実現可能な解決策等の検討を行い、ステークホルダーに対する発表の準備を行う。	実現可能な解決策等を自分なりの考えをまとめる。（予習） ステークホルダーとの協働活動で必要な内容等を整理する（復習）
第22週： PBL（発表・ステークホルダーとの打ち合わせ） ステークホルダーへの活動の提案型での発表を行い、ステークホルダーとの協働活動に向けた打ち合わせを行う。	
第23週： ステークホルダーとの協働活動・準備①（企画立案・チラシ等作成） PBLで決定した企画の内容を検討し、企画書を作成する。また必要に応じて、チラシ等の作成を行う。 ※社会人基礎力の調査	企画書作成に向けて、必要事項等をまとめる。（予習） 協働活動に向けて、必要物品等を整理する。（復習）
第24週： ステークホルダーとの協働活動・準備②（内容等詳細決定） PBLで決定した企画の内容等の詳細を決定し、当日の流れや必要物品等の準備を行う。	

第25週： ステークホルダーとの協働活動・準備③（必要物品等準備） PBLで決定した企画に合わせて、必要物品等の準備を行う。	必要事項（当日の流れや必要物品等）に応じて準備する（予習） ロールプレイでの変更点、企画の全体的なスケジュール等をまとめる。（復習）
第26週： ステークホルダーとの協働活動・準備④（ロールプレイ） 企画運営に関するロールプレイを学内で実践する。ロールプレイでの変更点等をまとめるとともに、当日のスケジュール・役割等の確認を行う。	
第27週： ステークホルダーとの協働活動・実践打ち合わせ 協働活動に向けて、ステークホルダーとの実践前の打ち合わせ（企画書に基づいて、当日の流れ、役割の確認等）を行う。	協働活動に向けて、企画書、役割、当日の流れ等を確認する。（予習） 事前打ち合わせで話し合った内容・注意点・変更点を確認する（復習）
第28週： ステークホルダーとの協働活動・実践① ステークホルダーとの協働活動を実践する。	最終打ち合わせを実施する（予習） 協働活動実践後、ステークホルダーとの振り返りを通して、各自、振り返りシートをまとめる。（復習）
第29週： ステークホルダーとの協働活動・実践②・振り返り 活動の実施後、ステークホルダーとともに振り返りを行う。	
第30週： PBL・協働活動（振り返り） PBL・協働活動の企画立案・運営実施・役割分担等での問題点・改善点等を振り返る。 ※社会人基礎力の調査	

授業の運営方法	（1）授業の形式	「演習等形式」
	（2）複数担当の場合の方式	
	（3）アクティブ・ラーニング	「アクティブ・ラーニング科目」
地域志向科目	カテゴリー Ⅰ：ステークホルダーとの協働による課題解決型学修科目	
備考		

○単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	当事者のニーズや地域の実情に合わせた運営、また当事者と学生との調整、企画立案のアドバイス等を通して、域学協働で行う活動の調整役、または総括的な役割を担うことができる。
【知識・理解】	当事者のニーズや地域の実情に合わせた問題解決のアプローチを考えることができる。
【技能・表現・コミュニケーション】	企画の運営時等で、他学年の動きを見ながら、より効果的な取組になるように助言や調整を行う（ストレスコントロール力、規律性）ことができる。
【思考・判断・創造】	企画の趣旨・内容等を正確に理解し、他学年に適切に助言すること（発信力・柔軟力）ができ、情況を見ながら運営時等でのアドバイス（情況把握力）をすることができる。

○成績評価基準（合計100点）	合計欄	100点

到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等（テスト）	レポート・作品等（提出物）	発表・その他（無形成果）
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。		10点	30点
【知識・理解】 ※「専門能力〈知識の獲得〉」を含む。		30点	
【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力〈知識の活用〉」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。			10点
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。		10点	10点

（「人間力」について）

※以上の観点に、「こころの力」（自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力）と「職業能力」（職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力）を加えた能力が「人間力」です。

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安

成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等（提出物）	リアクションペーパ等の提出物をもとに総合的に判断します。 ［Sレベル］単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。 ［Aレベル］単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。 ［Bレベル］単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。 ［Cレベル］単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。
発表・その他（無形成果）	講義・グループ活動への参加をもとに総合的に判断します。 ［Sレベル］単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。 ［Aレベル］単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。 ［Bレベル］単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。 ［Cレベル］単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。